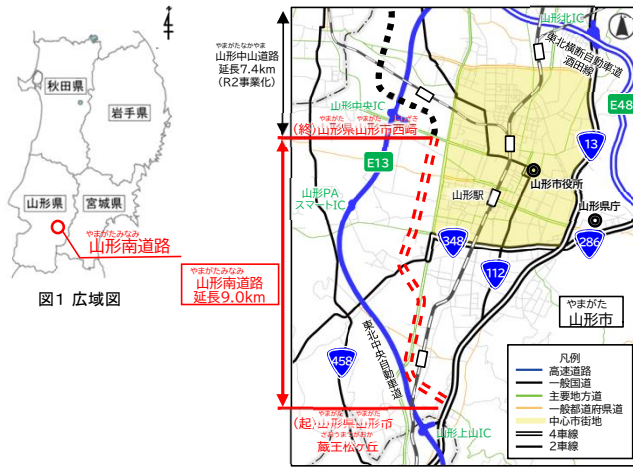


一般国道112号 山形南道路に係る新規事業採択時評価

1. 事業概要



- ・起終点: 山形県山形市蔵王松ヶ丘
～山形県山形市西崎
- ・延長等: 9.0km
(第3種第1級、4車線、設計速度80km/h)
- ・全体事業費: 約740億円 ・計画交通量: 約30,700台/日

| 乗用車 | 小型貨物 | 普通貨物 |
|------------|-----------|-----------|
| 約21,900台/日 | 約4,000台/日 | 約4,800台/日 |

①路線概要

- ・国道112号は山形県山形市 から山形県酒田市に至る延長166キロの主要幹線道路。このうち、山形南道路は、山形県山形市蔵王松ヶ丘 から山形県山形市西崎に至る延長9.0キロのバイパス事業

②事業目的

- ・当該道路の整備により、利用交通の分担が図られ、幹線道路の機能を確保するとともに交通の安全性を確保
- ・高次医療機関への安定した搬送ルートを確認し、救急医療活動を支援
- ・山形都市圏南部の円滑な物流ルートを確認し、物流活動を支援

③事業実施に向けた検討状況

- ・山形南道路は上位計画として山形市都市計画マスタープラン(H29.3月) に位置づけ
- ・地域課題等をふまえ、計画段階評価(R3.11月～R5.11月)において以下の政策目標を設定し、ルート構造を検討

- ①必要な交通容量の確保
- ②安全な交通環境の確保
- ③円滑な物流ルートの確保
- ④安定した救急搬送ルートの確保

2. 評価結果

| 費用便益分析 | ■費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したもの) | | | | |
|--------|---------------------------------------|--------|--------|---------|--|
| | B/C | (参考)※4 | EIRR※1 | 総費用 | 総便益 |
| | 4% | 1.6 | 2.1 | | 850億円※2 |
| | [2%]※3 | 2.5 | 3.2 | 523億円※2 | 走行時間経路性向上便益: 249億円 CO2排出削減便益: 1.6億円 |
| | [1%]※3 | 3.1 | 4.0 | | |

※1: EIRR: 経済的内部収益率
※2: 基準年(令和6年)における現在価値を記載(現在価値算出のための社会的割引率: 4%)
※3: 比較のために参考とすべき値として設定した社会的割引率
※4: 参考として多様な便益を算出

| 事業の影響 | 評価項目 | 評価 | 内容 |
|----------|-----------------|----|--|
| | 自動車や歩行者への影響 | | 幹線道路の機能確保 【課題】 ・評価対象範囲は、通過交通と発着交通が混在しており、連続している信号交差点での右折車両などが、直進車両の速度低下の要因となっており、複数の主要渋滞箇所が存在している(図3、図4) 【効果】 ・利用交通の分担が図られ、交通渋滞が緩和 ○国道112号の混雑度 【現況】1.12 → 【整備後】0.92(約2割改善) ○評価対象範囲の旅行速度 【現況】24km/h → 【整備後】30km/h(6km/h向上) ※現況: 令和3年度全国道路・街路交通情勢調査、整備後: 将来交通量推計結果(R22)を基に算定 |
| | 事故対策 (政策目標②) | ◎ | 交通の安全性向上 【課題】 ・評価対象範囲は、複数の主要渋滞箇所が存在しており、渋滞を起因とした追突事故が多く発生している(図4、図5) ・また、死傷事故率が東北平均と比較して約2倍高い(図6) 【効果】 ・利用交通の分担が図られ、交通渋滞が緩和することにより、交通の安全性が向上 ○国道112号の死傷事故率 【現況】104件/億台キロ → 【整備後】85件/億台キロ(約2割減少) ※現況: イタリア事故データ(R1-R4)、整備後: 将来交通量推計結果(R22)を基に算定 |
| | 歩行空間 | — | 注目すべき影響はない |
| 社会全体への影響 | 住民生活 (政策目標④) | ◎ | 安定した救急医療活動を支援 【課題】 ・山形市内には、二次、三次救急医療機関が複数立地しているが、交通渋滞により、一般車両が緊急車両の追い越しを阻害(写真1、図7) 【効果】 ・利用交通の分担が図られ、交通渋滞が緩和することにより、救急医療活動を支援 ○山形市西消防署周辺から三次救急医療機関への所要時間 【現況】16分 → 【整備後】11分(5分短縮) ※現況: 令和3年度全国道路・街路交通情勢調査、整備後: 将来交通量推計結果(R22)を基に算定 |
| | 地域経済 (政策目標③) | ◎ | 円滑な物流活動の支援 【課題】 ・山形中央IC付近の物流拠点までの輸送ルート上は交通渋滞により、円滑な輸送の確保が課題(図8、写真2) 【効果】 ・利用交通の分担が図られ、交通渋滞が緩和することにより、物流活動を支援 ○製薬工場から物流拠点への所要時間 【現況】26分 → 【整備後】18分(8分短縮) ※現況: 令和3年度全国道路・街路交通情勢調査、整備後: 将来交通量推計結果(R22)を基に算定 |
| | 災害 | ○ | ・堆雪幅を考慮した路肩幅員の確保により、緊急車両の通行を支援 |
| | 環境 | ○ | ・環境(CO ₂ 排出量)の改善 [CO ₂ 排出削減便益: 1.6億円] |
| | 地域社会 | ○ | ・当該事業区間である山形市と周辺市町との連携を深め、生活・産業を支援 |

図3 (主)山形上山線の交通内訳

図4 主要渋滞箇所・信号交差点

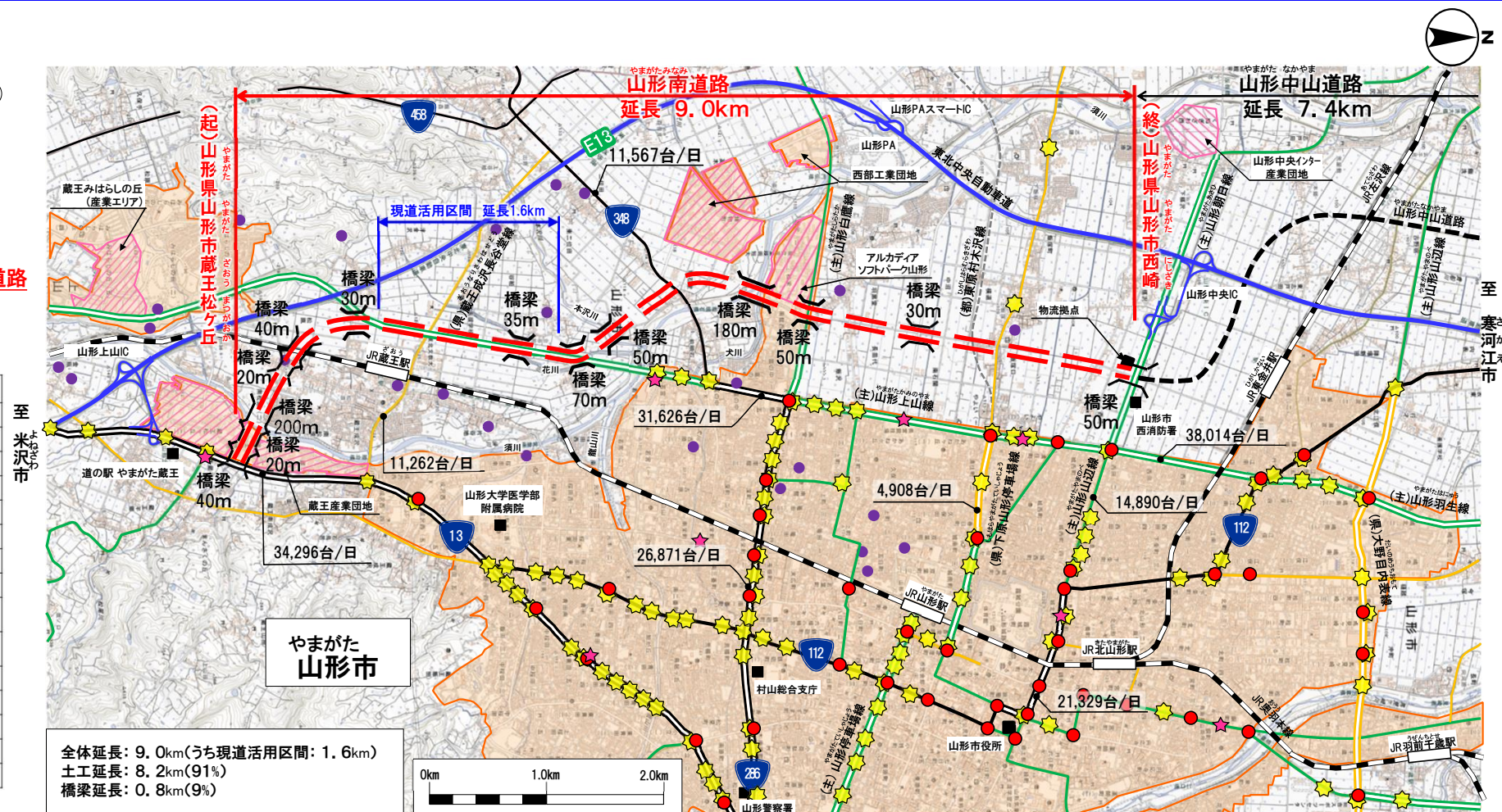
図5 評価対象範囲の事故類型

図6 評価対象範囲の死傷事故率(単路部)

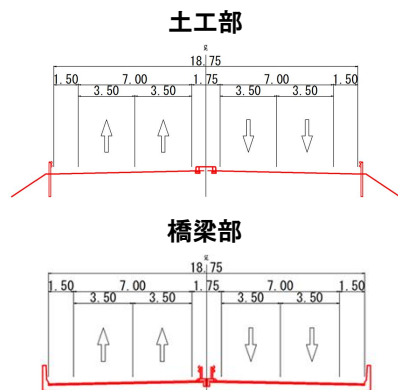
図7 救急医療機関

図8 物流拠点・物流経路の例

やまがた みなみ



单位(m)



計画縦断面図

